



## 八木 誠

YAGI Makoto

関西電力会長  
関経連副会長

# 関西は スーパー・メガリージョンで飛躍



この度、関経連の副会長を拝命し、複眼型国土形成や広域交通・物流インフラの整備・強化等を所管する国土・広域基盤委員会を担当させていただくことになりました。

関西電力は地域に根ざした企業ですから、関西に対する思いは誰にも負けないつもりです。その思いをかたちにして、関西のため、日本のため貢献したいと意気込んでいますので、どうぞよろしくお願ひします。

私は、関西経済の最大の課題は成長力不足と考えています。関西のGRPは足元で81兆円ですが、1990年からわずか1兆円しか増えていません。同じ期間に首都圏が13兆円も拡大させているのとは対照的です。関西経済が長らく「地盤沈下」と言われ続けている要因も、まさに、ここにあります。

したがって、関経連が「関西のGRP100兆円」を目標に掲げているのは正鵠を射ていると考えます。非常に高い目標でありますが、関西の持てる力を総動員して、何としても達成しなければならないと考えています。

その中で、最も期待を寄せているのがスーパー・メガリージョン構想です。

東京、中部、関西を単純に足し合わせると、人口7千万人、GRP300兆円。これだけでも世界最大のメガ・リージョンとなります。これまであまり論じられることのなかった三大都市圏の地域間連携を考えれば、伸びシロも相当なものだと思います。世界のヒト、モノ、カネも、これまで以上に集まつくるようになるでしょう。関西に関して言えば、その一翼を担うことで、成長力不足が劇的に改善します。「関西の地盤沈下」という言葉は、すっかり過去のものになるでしょう。

現時点でのスーパー・メガリージョン構想について決まっていることは何もありません。ただ、リニア中央新幹線の大坂までの開業の前倒しが決定しましたから、その分だけ、構想の実現の時期が近づいていることは確かです。

スーパー・メガリージョンのもとでは、国や地域のありかた、社会のありかたが抜本的に変わります。関西の成長戦略も、おそらく新しい枠組みの中で大幅な見直しが必要になると思いますが、私は、その際の最も重要なポイントは、三大都市圏の連携だと考えています。

これまで私たちは、どちらかというと東京、中部を関西のライバルとして論じることが多かったと思いますが、その発想のままでは、単なる足し算に終わり、スーパー・メガリージョンとしての伸びシロは生まれません。

東京は日本の首都であり、中部は自動車産業や航空宇宙産業の集積地として大きな強みを有しています。一方、関西には、アジアのゲートウェイという優位性がありますし、近年のインバウンドの著しい伸びや健康・医療産業の集積といった強みも有しています。

こうした三大都市圏それぞれの強みをどう組み合わせればいいのか、あるいは新しい枠組みの中でどう伸ばしていくのか、といったことを、スーパー・メガリージョンという広い視野で、頭を柔らかくして考えなければならないと思います。

国土・広域基盤委員会では、すでにこうした検討を始めています。会員のみなさまの知恵を結集して、スーパー・メガリージョンにおける新しい関西の姿を描きたいと考えていますので、ご協力を願っています。

(談)